

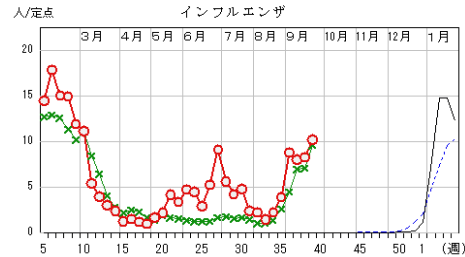
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第39週 2023年9月25日（月）～ 2023年10月1日（日） 2023年10月5日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

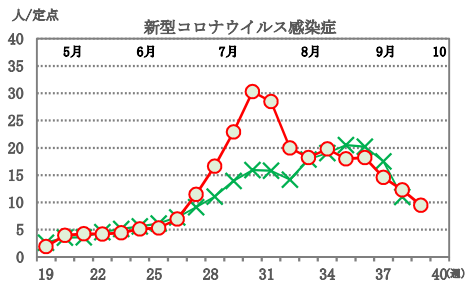
（1）インフルエンザ

第39週の報告数は716人で、前週より137人多く、定点当たりの報告数は10.23であった。
 年齢別では、10～14歳（183人）、5歳（57人）、8歳（52人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（21.00）、県央保健所（16.55）、長崎市保健所（13.94）であった。



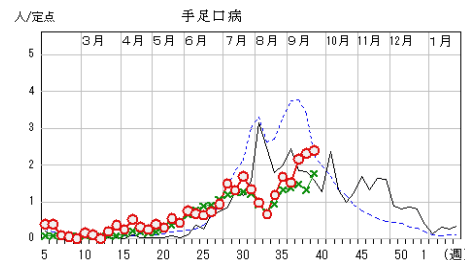
（2）新型コロナウイルス感染症

第39週の報告数は662人で、前週より198人少なく、定点当たりの報告数は9.46であった。
 本調査における年齢別では、10～14歳（114人）、40～49歳（84人）、50～59歳（63人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（29.33）、県北保健所（16.75）、壱岐保健所（12.67）であった。



（3）手足口病

第39週の報告数は105人で、前週より3人多く、定点当たりの報告数は2.39であった。
 年齢別では、1歳（33人）、3歳（18人）、2歳（17人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（5.67）、県北保健所（5.00）、長崎市保健所（2.90）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
 × 当年(全国) 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第39週の報告数は716人で、前週より137人多く、定点当たりの報告数は10.23でした。県全体で注意報レベル基準値「10.0」を超えました。地区別では、県北地区（21.00）は4週続けて警報レベルの報告数となっており、県央地区（16.55）、長崎地区（13.94）、佐世保地区（11.55）は注意報レベル基準値「10」を超えています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第39週の報告数は662人で、前週より198人少なく、定点当たり報告数は9.46でした。県全体では3週続けて減少し、地区別にみても多くの地区で前週より減少しています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。令和5年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が「新型インフルエンザ等感染症」から「五類感染症（定点把握）」に変更されました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【手足口病】

第39週の報告数は105人で、前週より3人多く、定点当たりの報告数は2.39となりました。地区別にみると、佐世保地区（5.67）、県北地区（5.00）は他の地区より多く、第37週以降警報レベルの報告数が継続しています。今後も動向に注意しましょう。

手足口病は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫や水疱内容液からも感染します。

本疾患の主な原因はエンテロウイルスです。県内で7-9月に採取された検体から、エンテロウイルス属のkokosakiウイルスA2、A6、エンテロウイルス71型(EV-A71)が検出されています。EV-A71は中枢神経系合併症（髄膜炎や脳炎）の発生率が高く、特に注意が必要です。

保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気をつけてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早目に医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：梅毒の報告数が過去最多となっています

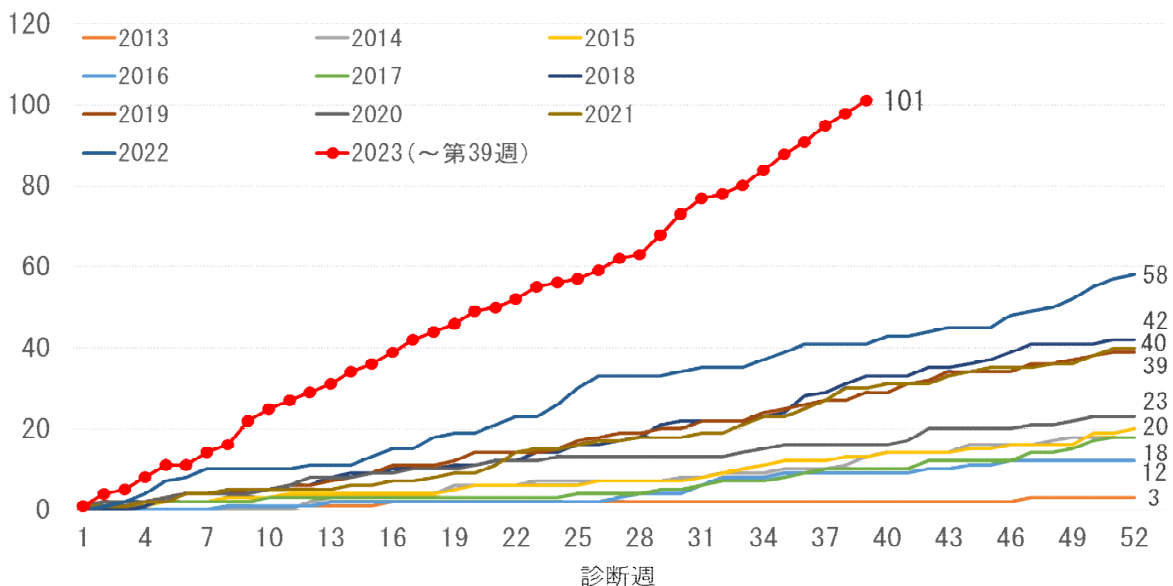
長崎県では2023年第39週までに101件の梅毒の報告があり、過去10年の中で最多であった2022年の58件を上回っています。男性が多く、年代別にみると20代が全体の約半数を占めています。

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

長崎県における診断週別累積患者報告数



☆トピックス：インフルエンザ流行の注意報が発表されました

2023年第39週の定点当たりの報告数は、「10.23」で前週より増加しました。第36週（9月4日から9月10日）より集計が開始された2023/2024シーズンにおいては、昨シーズンから流行の目安である「1.0」を超えた報告数が継続していましたが、9月に入ってから患者数が急激に増加し、第39週に注意報レベル基準値「10.0」を上回ったことから、県感染症対策室は10月5日に**インフルエンザ流行の注意報**を発令しました。

地区別にみると、県北地区（21.00）は、4週続けて警報レベルの報告数となっています。また、県央地区（16.55）、長崎地区（13.94）、佐世保地区（11.55）も注意報レベル基準値を超えています。

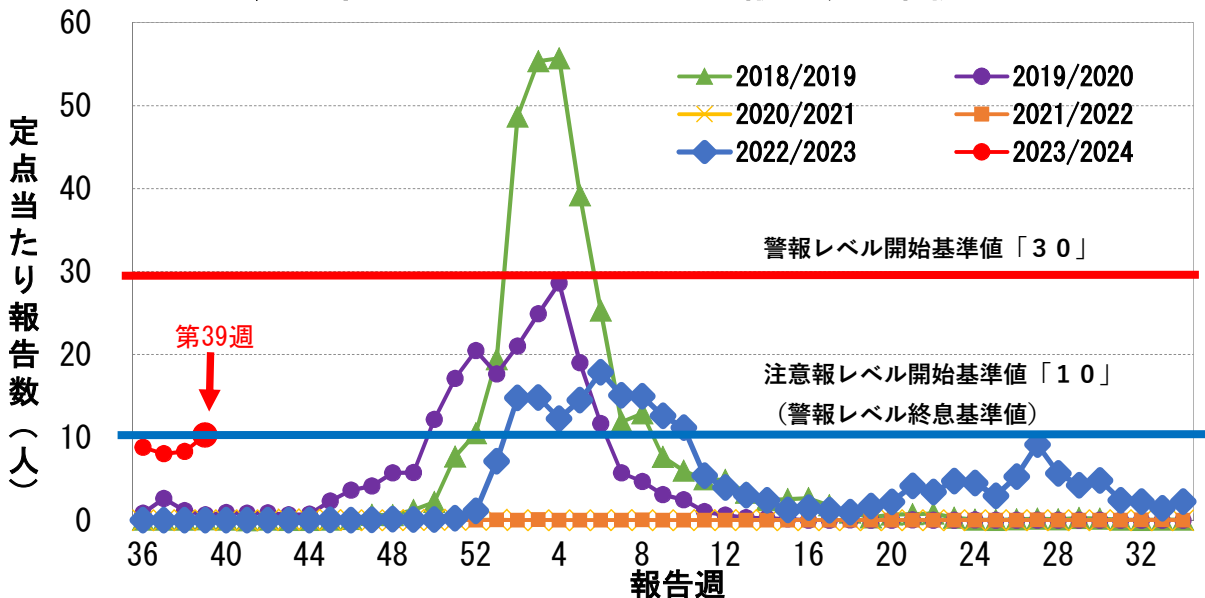
年代別にみると、10歳未満、10代の報告数が多くなっています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

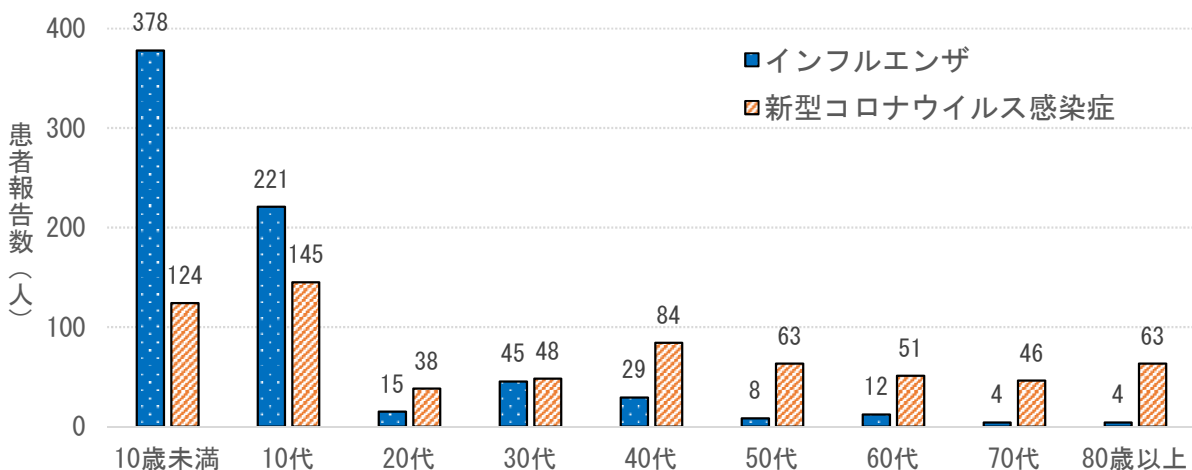
(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



長崎県における年代別患者報告数



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第39週：9月25日から10月1日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

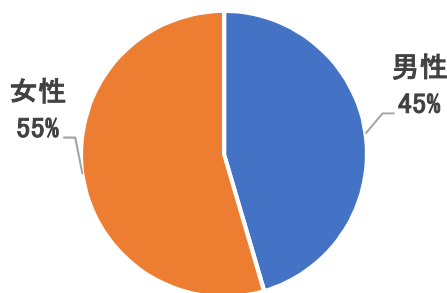
5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第39週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「12.29」より減少し、「9.46」でした。年齢別では、10代が多くなっています。

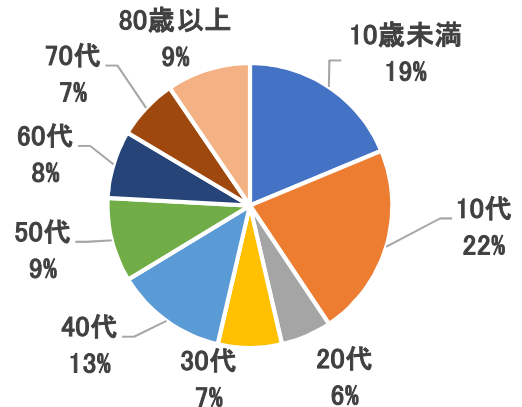
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	662	143	104	23	91	59	67	14	88	38	35
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	9.46	8.41	9.45	3.83	8.27	7.38	16.75	3.50	29.33	12.67	11.67

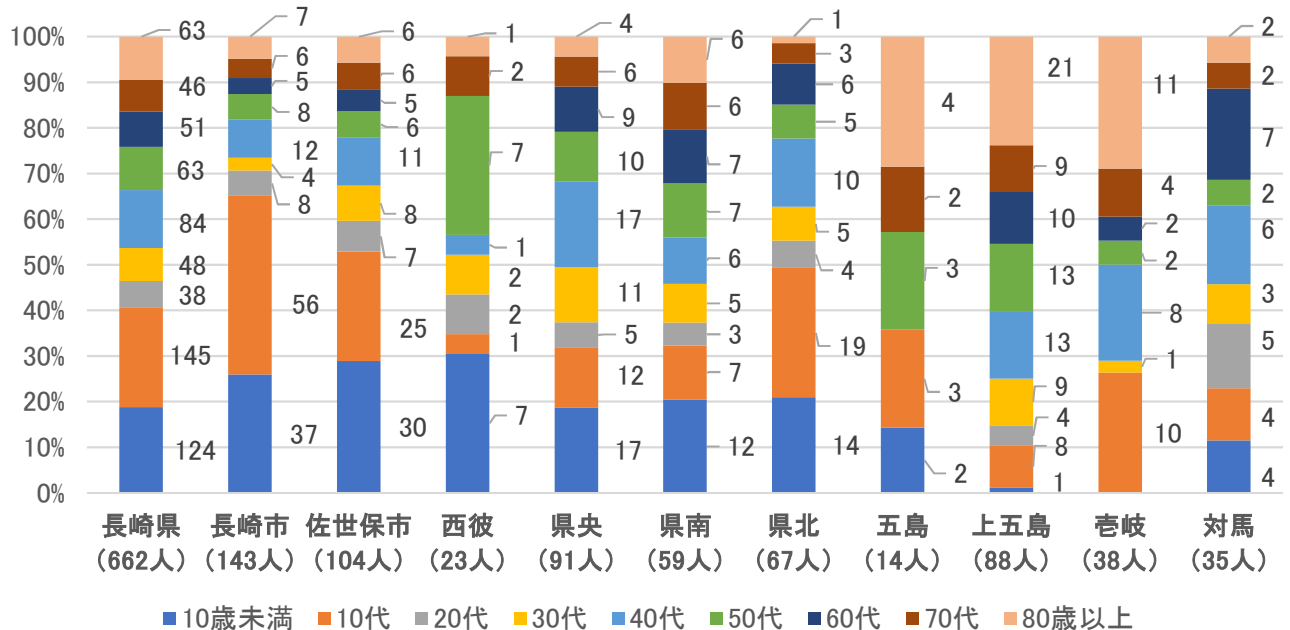
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症： 結核 患者 男性（70代・2名）
無症状病原体保有者 女性（60代・1名）

3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（50代・1名）

4類感染症： 日本紅斑熱 患者 男性（50代・1名）

5類感染症（全数把握対象）： 梅毒 患者 男性（40代・1名）
無症状病原体保有者 男性（70代・1名） 女性（70代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第34～39週、8/21～10/1)

疾患名	定点当たり患者数					
	34週	35週	36週	37週	38週	39週
	8/21～	8/28～	9/4～	9/11～	9/18～	9/25～
インフルエンザ	2.23	3.91	8.80	8.00	8.27	10.23
新型コロナウイルス感染症	19.79	17.97	18.24	14.61	12.29	9.46
RSウイルス感染症	0.98	1.18	0.91	1.09	0.61	0.34
咽頭結膜熱	0.57	1.07	1.73	1.66	1.36	2.02
A群溶血性链球菌咽頭炎	1.55	1.82	2.23	2.25	1.73	2.30
感染性胃腸炎	1.18	1.95	1.84	1.34	1.45	2.02
水痘	0.11	0.14	0.02	0.16	0.05	0.11
手足口病	1.18	1.68	1.52	2.16	2.32	2.39
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02					
突発性発しん	0.41	0.16	0.34	0.39	0.25	0.30
ヘルパンギーナ	1.09	1.23	0.64	0.70	0.68	0.57
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.07	0.02	0.05		0.05
急性出血性結膜炎	0.25	0.25	0.13	0.38	0.13	
流行性角結膜炎	0.25	0.88	0.75	0.75	0.75	0.50
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎		0.08		0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎		0.08	0.08			
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第39週、9/25～10/1) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	10.23	11.55	13.94	1.67	5.00	16.55	5.25	21.00	0.75	0.67	1.33
新型コロナウイルス感染症	9.46	9.45	8.41	12.67	3.83	8.27	7.38	16.75	3.50	29.33	11.67
RSウイルス感染症	0.34	0.33	0.30		0.75	0.14	1.00				0.50
咽頭結膜熱	2.02	1.50	4.50	0.50	3.00	2.00	0.20	0.67			2.50
A群溶血性链球菌咽頭炎	2.30	3.00	0.10		2.00	0.43	13.00	0.33			2.50
感染性胃腸炎	2.02	3.33	1.60		2.75	4.43	0.80	2.00	0.33		
水痘	0.11	0.50	0.10		0.25						
手足口病	2.39	5.67	2.90		1.50	2.29	0.80	5.00			0.50
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.30	0.50	0.60		0.50	0.14	0.20				
ヘルパンギーナ	0.57	0.33	0.90		0.75	0.86	0.80	0.33			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.10				0.20				
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.50	2.00	0.33				1.00				
細菌性髄膜炎	0.08	1.00									
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											